

雨庭

京の伝統「^{あめにわ}雨庭」

^{あめにわ}雨庭とは、地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく、一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った緑地のことです。雨水の流出抑制や、修景・緑化の推進、ヒートアイランド現象*の緩和などの効果が期待されています。京都の寺社では、この^{あめにわ}雨庭機能を取り入れた美しい庭園が古くから造られてきました。

* ヒートアイランド現象とは、郊外に比べ、都市部での気温が高くなる現象のことです。

四条堀川交差点北西角 雨庭

雨水を地中に浸透させやすくするために、植栽の周辺に、白い砂利などを敷き詰めた^{すはま}洲浜を設けました。砂利などは深いところでは、30cmの厚みがあり、雨水を一時的に貯留しておくこともできます。また、四季を感じられるよう、様々な種類の植栽が植えられています。

2020年3月竣工

看板寄贈：株式会社大幸造園



詳しい情報はこちらから↓

